

〔翻訳〕

ボンヘッファー年表（1940-1941）

山崎 和明

はじめに

本稿は、Dietrich Bonhoeffer Werke (DBW) 16巻『反乱計画と逮捕1940-1945』(Hrg. Jørgen Glentøj, Ulrich Kabiz und Wolf Krötke, *Konspiration und Haft 1940-1945*, Gütersloh/Chr. Kaiser Verlag 1996) の付属資料（ボンヘッファー年表）713頁以下の邦訳である。DBWが完成するまでは、ボンヘッファーの伝記や年譜は、すべてベートゲの大著『ボンヘッファー伝』(E. Bethge, Dietrich Bonhoeffer, *Theologe-Christ-Zeitgenosse. Eine Biographie*. München/Chr. Kaiser Verlag 1967) に依拠していた。邦文では、ベートゲの上掲書の邦訳（大伝記）、森野善右衛門訳『ボンヘッファー伝（4）』新教出版社1974年、521頁以下、およびベートゲ夫妻による上掲書の簡略版（小伝）、宮田光雄・山崎和明訳『ディートリヒ・ボンヘッファー』新教出版社1992年、232頁以下が詳しい。

しかし、新版ボンヘッファー全集（DBW）計18巻が2001年に完成して以来（現在もなお補巻を出版している）、研究事情は変わった。ベートゲが管理していた資料（旧版ボンヘッファー全集；*Gesammelte Schriften, Bd. I-VI*, München/Chr. Keiser Verlag 1956-1974）以上に、より包括的な資料が新版全集（DBW）に収録されている。そして各巻末には詳細な年表が資料として収録されている。多少、編集者や巻によって年表の精緻さは異なるが、現在手にすることのできるほぼ全てのボンヘッファー関係資料をもとに作成された年表は見事である。もち

ろん詳細な資料であっても、翻訳してみればまだ無記の日々が目立つ。従って、未だボンヘッファーの生涯の全貌を明らかにできていない。しかし、従来おぼろげであったボンヘッファー像は、DBWによって、はるかにくっきりと浮かび上がってきている。

DBW（新版ボンヘッファー全集）の英語版（EDBW）は、既に2012年アメリカで完成し、DBWの邦訳が待望される場所である。とりわけ手元があればきわめて便利である年表から訳出する。なかでもボンヘッファーが政治的抵抗運動に加担し、スパイのような二重生活を送り、秘匿された部分の多い第3期ボンヘッファーの年表がもっとも必要とされる。自分の職業選択に悩んでいた1940年から、ボンヘッファーが国防軍防諜部の嘱託を選んで行く経緯、防諜部での彼の活動と反ナチ抵抗運動との関わり、そして43年4月5日に彼が逮捕・勾留されるまでの流れを押さえておくことは、とても意義深い。

今回、四国学院大学の『論集』に掲載スペースを与えられ、DBWのボンヘッファー年表を日単位のカレンダーに記した。より完全で本格的な資料としての「ボンヘッファー年表」の完成に至る一里塚にしたい。

なお、DBW16巻の資料年表は1940年3月15日から始まっているため、DBW15巻『非合法の神学者養成 牧師補集会1937-1940』（Hrg. Dirk Schulz, *Illegale Theologen-Ausbildung 1937-1940*）をもとに、1940年1月1日（DBW15, SS.612f.）から見ていった。もっとも年表では、1940年1月15日から事項の記載がはじまっている。

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	1	1	月	
1940	1	2	火	
1940	1	3	水	
1940	1	4	木	
1940	1	5	金	
1940	1	6	土	
1940	1	7	日	
1940	1	8	月	
1940	1	9	火	
1940	1	10	水	
1940	1	11	木	
1940	1	12	金	
1940	1	13	土	
1940	1	14	日	
1940	1	15	月	1月中旬、ベルリンからジグルツホーフへ戻る。
1940	1	16	火	
1940	1	17	水	
1940	1	18	木	
1940	1	19	金	
1940	1	20	土	
1940	1	21	日	
1940	1	22	月	
1940	1	23	火	
1940	1	24	水	
1940	1	25	木	
1940	1	26	金	
1940	1	27	土	
1940	1	28	日	
1940	1	29	月	
1940	1	30	火	
1940	1	31	水	
1940	2	1	木	
1940	2	2	金	
1940	2	3	土	
1940	2	4	日	ベルリンで家族とボンヘッファー自身の誕生日祝い。
1940	2	5	月	
1940	2	6	火	

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	2	7	水	
1940	2	8	木	
1940	2	9	金	
1940	2	10	土	
1940	2	11	日	
1940	2	12	月	
1940	2	13	火	13日から14日、帝国領内（シュナイデンミュール、シュテッティン、シュトゥラルズント）からルブリン（強制収容所）へ、ユダヤ人の最初の移送。
1940	2	14	水	
1940	2	15	木	
1940	2	16	金	
1940	2	17	土	
1940	2	18	日	
1940	2	19	月	
1940	2	20	火	
1940	2	21	水	
1940	2	22	木	
1940	2	23	金	
1940	2	24	土	
1940	2	25	日	
1940	2	26	月	
1940	2	27	火	軍隊・野戦病院付き牧師職（申請）に対する拒否通知。
1940	2	28	水	
1940	2	29	木	
1940	3	1	金	
1940	3	2	土	
1940	3	3	日	
1940	3	4	月	
1940	3	5	火	
1940	3	6	水	
1940	3	7	木	
1940	3	8	金	
1940	3	9	土	
1940	3	10	日	
1940	3	11	月	
1940	3	12	火	

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	3	13	水	
1940	3	14	木	
1940	3	15	金	ジグルツホーフでの最後のコースとなる牧師補集会(1939/40冬学期)終了。ベルリンに帰る。
1940	3	16	土	
1940	3	17	日	
1940	3	18	月	ゲシュタポが、ジグルツホーフを閉鎖。
1940	3	19	火	ルードヴィヒ・ベック、ハンス・オスター、ウルリヒ・フォン・ハッセルそしてハンス・フォン・ドナーニーが、X報告について協議するため会談。
1940	3	20	水	
1940	3	21	木	
1940	3	22	金	ベルリンのガルニソン教会でマタイ受難曲 (J.S.バッハ) 鑑賞。
1940	3	23	土	
1940	3	24	日	オスターと面談。
1940	3	25	月	
1940	3	26	火	
1940	3	27	水	
1940	3	28	木	
1940	3	29	金	
1940	3	30	土	
1940	3	31	日	
1940	4	1	月	4月5月はほとんどベルリン。
1940	4	2	火	
1940	4	3	水	
1940	4	4	木	
1940	4	5	金	
1940	4	6	土	
1940	4	7	日	
1940	4	8	月	
1940	4	9	火	ドイツ軍が、デンマークとノルウェーに侵攻 (Invasion)。
1940	4	10	水	
1940	4	11	木	
1940	4	12	金	
1940	4	13	土	
1940	4	14	日	
1940	4	15	月	

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	4	16	火	
1940	4	17	水	
1940	4	18	木	
1940	4	19	金	
1940	4	20	土	
1940	4	21	日	
1940	4	22	月	
1940	4	23	火	
1940	4	24	水	
1940	4	25	木	
1940	4	26	金	
1940	4	27	土	
1940	4	28	日	
1940	4	29	月	
1940	4	30	火	
1940	5	1	水	5月上旬、ベートゲとフリードリヒスブルン
1940	5	2	木	
1940	5	3	金	
1940	5	4	土	
1940	5	5	日	
1940	5	6	月	
1940	5	7	火	パウル・ブラウネとフリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンク、「安楽死」措置に抗する助言と支援を得るため、カール・ボンヘッファー宅。
1940	5	8	水	
1940	5	9	木	ブラウネ、ドナーニー宅。オスター、攻撃開始日が5月10日に最終決定されたことをオランダ人大使館付き武官ザース(Sas)に通報する。
1940	5	10	金	ドイツ軍、オランダ、ベルギー、フランスへ攻撃。
1940	5	11	土	
1940	5	12	日	
1940	5	13	月	
1940	5	14	火	
1940	5	15	水	
1940	5	16	木	
1940	5	17	金	
1940	5	18	土	
1940	5	19	日	ラスベックのヘルベルト・フォン・ビスマルク宅。

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	5	20	月	
1940	5	21	火	
1940	5	22	水	
1940	5	23	木	
1940	5	24	金	
1940	5	25	土	
1940	5	26	日	
1940	5	27	月	
1940	5	28	火	
1940	5	29	水	
1940	5	30	木	
1940	5	31	金	
1940	6	1	土	
1940	6	2	日	
1940	6	3	月	
1940	6	4	火	Dün教会事件。
1940	6	5	水	シュラヴェでの牧師集会。／徴兵検査。
1940	6	6	木	ベートゲと、(第1回) 東プロイセンでの間安旅行の開始。
1940	6	7	金	
1940	6	8	土	ヘルデナウ、カルケルン、主題は洗礼規律(Tauchzucht)。／イタリア参戦。
1940	6	9	日	
1940	6	10	月	ティルジットでの牧師集会。
1940	6	11	火	
1940	6	12	水	ケーニヒスベルクにて牧師集会。ロマ書8章17節以下の黙想。
1940	6	13	木	シャケンドルフ、ブリッタニエン、マルコ伝9章24節の説教。
1940	6	14	金	パリ、無血占領される。
1940	6	15	土	
1940	6	16	日	
1940	6	17	月	メーメル。フランス軍降伏。
1940	6	18	火	
1940	6	19	水	
1940	6	20	木	
1940	6	21	金	ケーニヒスベルク。／コピーエーニュの森にて、フランス側より出た停戦願いに対するドイツ側の条件提示。

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	6	22	土	ダンツィヒにて、リヒャルト・グルノウ宅にて学生たちの休暇研修。ノドイツとフランス間の停戦締結。(ソ連への侵攻、独ソ戦開始)
1940	6	23	日	
1940	6	24	月	
1940	6	25	火	ベルリンに帰る。
1940	6	26	水	
1940	6	27	木	
1940	6	28	金	
1940	6	29	土	ケスリンにて、クノル博士との信徒集会。
1940	6	30	日	
1940	7	1	月	ケスリンにて牧師集会。ベルリンへ帰る。
1940	7	2	火	ノヴァヴェスにて告白教会評議委員会会合。ボンヘッファー、政治的状况に言及。
1940	7	3	水	
1940	7	4	木	
1940	7	5	金	
1940	7	6	土	
1940	7	7	日	第2回東プロイセンでの問安旅行。ケーニヒスベルク。主題「教会生活の秩序」。
1940	7	8	月	8～10日、ケーニヒスベルクにて牧師休暇研修。主題「福音的告解」、「洗礼の恩恵と洗礼の規律」、「今日における我々の宣教」、「教会の預言者の課題」、「教会と職務 (Amt)」。マタイ伝7章13節以下の聖書研究。
1940	7	9	火	8・9日、告白教会評議委員会とシュトゥットガルトの南ドイツ州教会との対話。
1940	7	10	水	
1940	7	11	木	シュテッティンにて告白教会評議委員会会合。ボンヘッファー、状況についての報告。
1940	7	12	金	ハンス・シェーンフェルト、8日から12日までベルリン滞在。
1940	7	13	土	ブレスタウ (Blöstau: ハンス・イーヴァントが働いていた地) にて週末休暇研修。(日曜の朝の礼拝後) ケーニヒスベルクのゲシュタポにより解散させられる。
1940	7	14	日	
1940	7	15	月	ニルス・エーレンシュトローム、8日から15日までベルリン滞在。 Gumbinnen。死について報告 (クロウン講演の主題)。
1940	7	16	火	

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	7	17	水	ケーニヒスベルク。ボンヘッファー所蔵のニコライ・ハルトマン『倫理学』に日付の書き込みがあり、この日ここで書籍を購入したもよう。さらにシュタルパーネン近郊へ進む。
1940	7	18	木	(リトアニア国境付近にソ連軍が占領していた。)
1940	7	19	金	ヴルム監督が帝国大臣フリックに宛てた安楽死措置に関する書簡。
1940	7	20	土	プレスタウの週末休暇研修についてのケーニヒスベルクのSDセンターからの報告が帝国保安庁本部に届く。
1940	7	21	日	
1940	7	22	月	
1940	7	23	火	ダンツィヒ。「今日の内にダンツィヒに往き、そしてフォン・クライスト夫人の所へ、月曜か火曜にはベルリンにいる」。
1940	7	24	水	
1940	7	25	木	
1940	7	26	金	
1940	7	27	土	
1940	7	28	日	
1940	7	29	月	ベルリンに戻る。ドナーニーと相談。
1940	7	30	火	
1940	7	31	水	
1940	8	1	木	計画していたクライン・クレッシンでの滞在に代えて、ベルリン。
1940	8	2	金	
1940	8	3	土	
1940	8	4	日	
1940	8	5	月	ドナーニーとシェーンフェルトと共に、ポツダム。
1940	8	6	火	帝国法務省に提出する予定の立法草案の件で、ドナーニーと話し合い。
1940	8	7	水	クライン・クレッシンのルート・フォン・クライスト・レッツォー宅に滞在。
1940	8	8	木	
1940	8	9	金	
1940	8	10	土	
1940	8	11	日	
1940	8	12	月	
1940	8	13	火	ベートゲと共に、ベルリンに戻る。「8月に」オスター、ハンス・バルント・ギゼヴィウス、ドナーニー、ボンヘッファーとベートゲがマリエンブルク街で会合。

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	8	14	水	
1940	8	15	木	
1940	8	16	金	
1940	8	17	土	
1940	8	18	日	ベルリンのフリーデナウにて、ギュンター・デーンの礼拝に。
1940	8	19	月	
1940	8	20	火	
1940	8	21	水	
1940	8	22	木	帝国保安庁本部、ボンヘッファーらに対して民族破壊活動のゆえに公的発言禁止 (Redeverbot) 措置命令。
1940	8	23	金	
1940	8	24	土	
1940	8	25	日	第3回東プロイセンでの問安旅行、ディルシャウ経由でケーニヒスベルクへ。
1940	8	26	月	ケーニヒスベルクの防諜部支部に接触する。
1940	8	27	火	
1940	8	28	水	
1940	8	29	木	
1940	8	30	金	
1940	8	31	土	
1940	9	1	日	
1940	9	2	月	ベートゲ、ベルリンのゴスナー・ミッション協会での仕事開始。
1940	9	3	火	
1940	9	4	水	帝国内における公的発言禁止命令の施行。公認居住地シュラーヴェでの報告義務。「カナーリス部局」のUKの地位 (兵役免除)。
1940	9	5	木	
1940	9	6	金	
1940	9	7	土	
1940	9	8	日	
1940	9	9	月	
1940	9	10	火	
1940	9	11	水	
1940	9	12	木	
1940	9	13	金	
1940	9	14	土	

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	9	15	日	ベルリン。帝国保安庁本部への抗議文。
1940	9	16	月	『倫理』の執筆のためにクライン・クレッシンに10月20日頃まで引きこもる。
1940	9	17	火	
1940	9	18	水	
1940	9	19	木	
1940	9	20	金	デュッセルドルフのゲシュタポによる声明文 (ボンヘッファーの動静監視、他にゴルヴィッツァー、リンツ、クレック、オナーシュなど)。
1940	9	21	土	
1940	9	22	日	
1940	9	23	月	
1940	9	24	火	ドナーニー、ローマに飛ぶ。
1940	9	25	水	
1940	9	26	木	
1940	9	27	金	ドイツ・イタリア・日本の三国同盟。
1940	9	28	土	
1940	9	29	日	
1940	9	30	月	
1940	10	1	火	
1940	10	2	水	
1940	10	3	木	
1940	10	4	金	
1940	10	5	土	
1940	10	6	日	
1940	10	7	月	
1940	10	8	火	「外は強い秋の嵐が吹いて木々の葉を散らしています。・・・私はここに腰掛けて、静かに著作に没頭しています」(両親宛)。
1940	10	9	水	クライン・クレッシンにて。バートゲ宛「仕事は進んでおり、全体の構成を記している。…一週間かそれ以上たっぷり掛かるだろう」。
1940	10	10	木	
1940	10	11	金	
1940	10	12	土	
1940	10	13	日	
1940	10	14	月	
1940	10	15	火	
1940	10	16	水	

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	10	17	木	
1940	10	18	金	
1940	10	19	土	
1940	10	20	日	再びベルリンにて。家で蔵書の整理。
1940	10	21	月	
1940	10	22	火	南西ドイツ地域のユダヤ系ドイツ市民をフランス南部のGursへ移送開始。
1940	10	23	水	
1940	10	24	木	
1940	10	25	金	
1940	10	26	土	
1940	10	27	日	
1940	10	28	月	イタリア軍、ギリシャ侵攻に失敗。
1940	10	29	火	
1940	10	30	水	ミュンヘンへ、現地の防諜部支部に配属。
1940	10	31	木	エタール修道院訪問。
1940	11	1	金	
1940	11	2	土	
1940	11	3	日	
1940	11	4	月	まだミュンヘン。ベルリンへ帰る予定。
1940	11	5	火	
1940	11	6	水	(両親宛) (ベートゲ宛)
1940	11	7	木	
1940	11	8	金	
1940	11	9	土	
1940	11	10	日	
1940	11	11	月	
1940	11	12	火	
1940	11	13	水	
1940	11	14	木	
1940	11	15	金	イエーナにて。ヴォルフガング・シュテムラー(古プロイセン合同教会評議員会)は、「皆は、私が今、学術的仕事に従事していることを重要視していると、私に伝えた」。/ゲルハルト・フォン・ラートと再会。
1940	11	16	土	イエーナからミュンヘンに。/シュテムラー逮捕。
1940	11	17	日	ベネディクト会修道院エタールで1941年2月まで客人(宿は、ホテル・ルードヴィヒ・バイエルン候)。アンゲルス・クッパー修道院長との最初の面談。

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	11	18	月	
1940	11	19	火	
1940	11	20	水	
1940	11	21	木	(DBのシュラーヴェからの転出届け)
1940	11	22	金	クリスティーネ・フォン・ドナーニーが、子ども達とエタールに到着。
1940	11	23	土	
1940	11	24	日	アダム・フォン・トゥロット、ジュネーヴに。
1940	11	25	月	
1940	11	26	火	
1940	11	27	水	ベートゲ宛「今日、私の本につける可能性のあるタイトルが思い浮かんだ。＜道備えと到来＞。その本の、「究極以前のもの」と「究極のもの」という二分に相当する」。
	日付なし			マルガレーテ・オナーシュ宛手紙；パウル・グラーフ・ヨルク・フォン・ヴァルテンブルクの覚書に言及。
1940	11	28	木	ミュンヘンにて、クリスチャン・カイザー出版社訪問。
1940	11	29	金	
1940	11	30	土	
1940	12	1	日	
1940	12	2	月	
1940	12	3	火	
1940	12	4	水	
1940	12	5	木	
1940	12	6	金	
1940	12	7	土	ミュンヘン、マイザー監督宅。
1940	12	8	日	再びエタール。ボンヘッファーは、帝国法務大臣ギュルトナーと帝国教会相ケルルとの接触が実現したことについて言及。
1940	12	9	月	エタール。ベートゲ宛「今、私は＜自然的生＞についての部分を書きはじめている」。
1940	12	10	火	
1940	12	11	水	
1940	12	12	木	
1940	12	13	金	ボンヘッファー、インフルエンザにかかったクリストーフ・フォン・ドナーニーを看病。
1940	12	14	土	
1940	12	15	日	
1940	12	16	月	16日から19日、ミュンヘン。ベートゲ到着。
1940	12	17	火	

昭和15(閏)年	月	日	曜日	出来事
1940	12	18	水	
1940	12	19	木	
1940	12	20	金	
1940	12	21	土	エタール。ギュルトナーと面談。／英国教会指導者の平和10項目公表。
1940	12	22	日	ドナーニーのエタール到着を待つ。
1940	12	23	月	
1940	12	24	火	エタール。クリスマス深夜ミサ。／このあたりのある日に、ボンヘッフアーとベートゲは、P. ルペルト・マイヤー (Rpert Mayer) と出会う。
1940	12	25	水	
1940	12	26	木	(H-W・イェンセン宛)
1940	12	27	金	
1940	12	28	土	母宛手紙。修道院で夕刻演奏する。
1940	12	29	日	
1940	12	30	月	
1940	12	31	火	
昭和16年	月	日	曜日	
1941	1	1	水	
1941	1	2	木	
1941	1	3	金	
1941	1	4	土	
1941	1	5	日	
1941	1	6	月	
1941	1	7	火	7日から10日、英国でマルヴァーン (Malvern) 会議、和平10項目の確認。
1941	1	8	水	
1941	1	9	木	
1941	1	10	金	
1941	1	11	土	
1941	1	12	日	
1941	1	13	月	
1941	1	14	火	P・ヨハネス、ベルリン滞在。UK身分(兵役免除)の最終的実施(防諜部ミュンヘン支部が、ボンヘッフアーの徴兵免除をミュンヘン徴兵事務所に提出し最終的決着)。
1941	1	15	水	エタールよりベートゲ宛「再び仕事に掛かっている」「出エジプト23章7節を見てごらん」(焦眉の安楽死措置を目前にして)。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	1	16	木	
1941	1	17	金	車でメッテン修道院へ。ランツフトから葉書。
1941	1	18	土	ミュンヘンに帰る、司教（修道院長）ノイホイスラーを訪問。
1941	1	19	日	ミュンヘンよりの手紙で、ゲオルゲ・サンタヤナの著書『最後の清教徒』とラインホルト・シュナイダーの著書『権力と恩寵』に言及。
1941	1	20	月	エタルルよりバートゲ宛、「執筆で今、まさに安楽死の問題に至っている」。
1941	1	21	火	
1941	1	22	水	
1941	1	23	木	
1941	1	24	金	ドナーニー、出張でイタリアに。
1941	1	25	土	24-25日、ミュンヘン。
1941	1	26	日	
1941	1	27	月	
1941	1	28	火	
1941	1	29	水	ギュルトナー死去。
1941	1	30	木	30日から31日、ミュンヘンのカルクロイト家に。
1941	1	31	金	(ボンヘッファーの移動報告義務回避作戦成功)。31日、フランツ・ケーニクスと朝食。報告義務の件がシュラーヴェからミュンヘンに移行。
1941	2	1	土	
1941	2	2	日	
1941	2	3	月	
1941	2	4	火	ノイホイスラー逮捕される。
1941	2	5	水	
1941	2	6	木	
1941	2	7	金	
1941	2	8	土	ミュンヘンでギュルトナーの埋葬式に参列。クリスティーネ・フォン・カルクロイトからエタルルに電話：ゲシュタポが彼女のところにボンヘッファーについて問い合わせをした。スイスへの旅券は、当分、不許可。
1941	2	9	日	
1941	2	10	月	エタルルからの手紙「今、婚姻の問題について」。
1941	2	11	火	
1941	2	12	水	
1941	2	13	木	

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	2	14	金	エタールからの手紙「ここ最近再び執筆することができた」。／シュミットフーバー領事が旅券問題、すなわちスイスへの入国の問題解決のため奮走する。
1941	2	15	土	エタールからの手紙「断種、避妊等の困難な問題に決着を片付けた。これから、労働、自由、思想への自然の権利（自然権）に向かう。
1941	2	16	日	ベートゲ、2月16日から3月7日まで東プロイセン。
1941	2	17	月	エタール。ヴルム監督からの郵便物。
1941	2	18	火	
1941	2	19	水	エタール。「労働の権利」のメモ。
1941	2	20	木	
1941	2	21	金	
1941	2	22	土	
1941	2	23	日	
1941	2	24	月	ミュンヘンより、第1回スイス旅行（出張）。
1941	2	25	火	チューリヒに。ライプホルツとベル主教宛手紙。ローレ・シュミット、エルヴィン・ズッツ他と会合、ペスタロッツ宅に滞在。
1941	2	26	水	シェーンフェルト、3月23日までベルリンとベルグラードへ旅行（出張）。
1941	2	27	木	
1941	2	28	金	2月末（日不明）、オスター、ドナーニー、ハッセル、アレクサンダー・フライヘル・フォン・ファルケンハウゼン、ベルリンで会合。
1941	3	1	土	
1941	3	2	日	ラッペルスヴィルのズッツ宅。
1941	3	3	月	
1941	3	4	火	バーゼル。夕刻、カール・バルト宅。
1941	3	5	水	バーゼル。夕刻、アルフォンス・ケヒリン宅。
1941	3	6	木	バーゼル。午前、バルト宅。
1941	3	7	金	バーゼル。午前、バルト宅。さらにフリードリヒ・ジークムント-シュルツェそしてケヒリンと会合。
1941	3	8	土	8日から13日、ハンスとクリスティアーネ・フォン・ドナーニー、休暇でイタリアへ。 8日から15日、ジュネーヴにて世界教会出版物の調査：ヴィルヘルム・A・ヴィサートウーフト、エーレンシュトローム、アドルフ・フロイデンベルク、シャルル・ギュイオン、アンリ・ルイス・アンリオ、ヘンリ・デスピーネ、ジャック・クルヴォワジエ、フランツ・レーンハルト、ジャック・ドウ・セナルクレン（Jacques de Senarclens）と面談。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	3	9	日	
1941	3	10	月	
1941	3	11	火	
1941	3	12	水	
1941	3	13	木	
1941	3	14	金	
1941	3	15	土	
1941	3	16	日	
1941	3	17	月	
1941	3	18	火	18から19日、トゥロット、ジュネーヴにてヴィサートウーフト宅。
1941	3	19	水	ヴィサートウーフトからベル主教への手紙。／帝国著作院、印刷出版禁止。(25日発効。)
1941	3	20	木	チュリヒのベスタロッツ宅。「キリスト教的生の秩序」について対話。
1941	3	21	金	
1941	3	22	土	
1941	3	23	日	
1941	3	24	月	スイスよりミュンヘンに帰る。シュミットフーバー宅。／ベルリンのv・d・ゴルツェのハナー伯爵夫人の埋葬式。
1941	3	25	火	
1941	3	26	水	ハレにて、エルンスト・ヴォルフ宅。出版禁止への対処で助言。ベートゲ、ボンヘッファーを車で迎えに行った。
1941	3	27	木	ベルリン、「5か月の不在の後」。
1941	3	28	金	
1941	3	29	土	
1941	3	30	日	
1941	3	31	月	
1941	4	1	火	エタールにて、アルベルト・レムプ (Albert Lempp) からの手紙。
1941	4	2	水	
1941	4	3	木	
1941	4	4	金	
1941	4	5	土	
1941	4	6	日	ドイツが、ギリシア、ユーゴスラヴィアに進軍。
1941	4	7	月	
1941	4	8	火	フリードリヒスブルンにて、両親と復活祭休暇に。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	4	9	水	
1941	4	10	木	
1941	4	11	金	
1941	4	12	土	
1941	4	13	日	
1941	4	14	月	
1941	4	15	火	中旬。クライン・クレッシンに。
1941	4	16	水	
1941	4	17	木	
1941	4	18	金	
1941	4	19	土	
1941	4	20	日	
1941	4	21	月	
1941	4	22	火	再びフリードリヒスブルンに。「ここ最近の何日か、じっくり仕事に向かっている」。／帝国著作院 (Reichsschrifttumskammer) への抗議書簡。
1941	4	23	水	
1941	4	24	木	
1941	4	25	金	再びベルリン。ペレルスとその妻を午後招待。
1941	4	26	土	
1941	4	27	日	
1941	4	28	月	クライン・クレッシン。「二、三日ポムメルンへ」。
1941	4	29	火	
1941	4	30	水	
1941	5	1	木	
1941	5	2	金	
1941	5	3	土	
1941	5	4	日	
1941	5	5	月	
1941	5	6	火	ベルリンの試験委員のメンバー (複数) が逮捕される。
1941	5	7	水	
1941	5	8	木	
1941	5	9	金	
1941	5	10	土	
1941	5	11	日	
1941	5	12	月	
1941	5	13	火	

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	5	14	水	ミュンヘン。ハンス-ヴェルナー・イェンセンあての書簡。
1941	5	15	木	
1941	5	16	金	
1941	5	17	土	
1941	5	18	日	
1941	5	19	月	
1941	5	20	火	
1941	5	21	水	
1941	5	22	木	ベルリンにて、ドナーニーと共にコッホ博士宅。
1941	5	23	金	
1941	5	24	土	
1941	5	25	日	ベルリンにて、アルトゥール・ネーベと会うため、ドナーニーと再度コッホ博士宅。／ホルスト・トゥルマン (Horst Thurmann) が、強制収容所に収容される。
1941	5	26	月	
1941	5	27	火	
1941	5	28	水	
1941	5	29	木	
1941	5	30	金	おそらくベルリンから、バルト宛の礼状。KDII/1の送付への謝辞。「最近、仕事がとても素晴らしいほどはかどっています。とりわけ私が旅行したことによってとても進展しました」。
1941	5	31	土	
1941	6	1	日	五旬節。教会の印刷物を停止させるための帝国著作院の命令。1日から4日まで、ドナーニー、エタールに。
1941	6	2	月	
1941	6	3	火	
1941	6	4	水	
1941	6	5	木	
1941	6	6	金	
1941	6	7	土	7日から19日、ドナーニー、イタリア出張。
1941	6	8	日	
1941	6	9	月	
1941	6	10	火	ベルリン。Gerty・ベスタロッツ宛の手紙。
1941	6	11	水	トゥロット、ジュネーヴで、ヴィサートーフト宅。
1941	6	12	木	
1941	6	13	金	
1941	6	14	土	

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	6	15	日	
1941	6	16	月	
1941	6	17	火	
1941	6	18	水	
1941	6	19	木	
1941	6	20	金	
1941	6	21	土	
1941	6	22	日	ドイツ軍、ソヴェト連邦に侵攻。／ポツダムでのベートゲの説教に出席。
1941	6	23	月	
1941	6	24	火	
1941	6	25	水	
1941	6	26	木	
1941	6	27	金	
1941	6	28	土	牧師の労働義務に関する行政処分。
1941	6	29	日	クライン・クレッシン。「うまく仕事に向かえている」。
1941	6	30	月	
1941	7	1	火	
1941	7	2	水	
1941	7	3	木	
1941	7	4	金	
1941	7	5	土	クライン・クレッシン。「来週末あたり、二、三日、ベルリンに行くつもりだった。ミュンヘンに行かなくてはならなくなる前に」。
1941	7	6	日	マルティン・ボルマンによる将来の教会政治に対する極秘行政処分。
1941	7	7	月	7日から11日、ハンスとクリスティーネ・フォン・ドナーニーが、シュミットフバーとともにベニスで休暇。
1941	7	8	火	
1941	7	9	水	
1941	7	10	木	
1941	7	11	金	
1941	7	12	土	ベルリンへ帰る途上。／モスクワで、英国とソ連が同盟条約の締結。
1941	7	13	日	
1941	7	14	月	
1941	7	15	火	ミュンヘンへ。
1941	7	16	水	

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	7	17	木	
1941	7	18	金	
1941	7	19	土	
1941	7	20	日	
1941	7	21	月	
1941	7	22	火	
1941	7	23	水	
1941	7	24	木	
1941	7	25	金	
1941	7	26	土	
1941	7	27	日	
1941	7	28	月	
1941	7	29	火	
1941	7	30	水	
1941	7	31	木	
1941	8	1	金	ハンス - フリードリヒ・フォン・クライスト - レッツウオーがロシアで戦死との訃報。
1941	8	2	土	
1941	8	3	日	キーコウで葬儀。
1941	8	4	月	
1941	8	5	火	ベートゲとクライン - クレッシンに。
1941	8	6	水	
1941	8	7	木	ユルゲン - クリストーフ・フォン・クライスト - レッツウオーがロシアで戦死。
1941	8	8	金	
1941	8	9	土	
1941	8	10	日	
1941	8	11	月	
1941	8	12	火	
1941	8	13	水	
1941	8	14	木	
1941	8	15	金	
1941	8	16	土	
1941	8	17	日	
1941	8	18	月	
1941	8	19	火	ドナーニーとオスターが、ハッセルと面談。
1941	8	20	水	ベルリン。給与の問題で牧師緊急同盟と話し合い。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	8	21	木	
1941	8	22	金	
1941	8	23	土	
1941	8	24	日	
1941	8	25	月	25日より28日、ミュンヘンとエタールで、なかでもJ・ミュラーと面談。ザルツブルクよりペレルスからの電話。
1941	8	26	火	
1941	8	27	水	
1941	8	28	木	
1941	8	29	金	第2回スイス出張、9月26日まで。
1941	8	30	土	バーゼルにて、バルトおよびケヒリン (Koechlin) 宅。
1941	8	31	日	
1941	9	1	月	黄色のユダヤの星携帯、およびユダヤ名の使用に関するに命令 (Verordnung)、1941年9月19日施行。
1941	9	2	火	ヴルム主教が、州教会大会 (Landeskirchentag) で、ナチの教会政治へ公然と批判。
1941	9	3	水	夕刻、ジュネーヴにてエーレンシュトローム宅。
1941	9	4	木	ジュネーヴにて、ヴィサートーフト、エーレンシュトローム、フロイデンベルク、クルヴォアジエ (Courvoisier)、アンリーオ (Henriod)、ジーン・ドゥ・ソシュール (Jene de Saussure)らと面談。
1941	9	5	金	WallisのChampaix湖畔にある、フロイデンベルクの休暇の家に滞在、W・ペイトンの著書『教会と新秩序』に対する覚書を作成するため。
1941	9	6	土	
1941	9	7	日	
1941	9	8	月	
1941	9	9	火	
1941	9	10	水	ジュネーヴにて、夕刻エーレンシュトローム宅。／モルトケ、ベルリンでドナーニーとユストゥス・デルブリュックと会合。
1941	9	11	木	
1941	9	12	金	
1941	9	13	土	「帝国大管区ヴァルテラント (Wartheland) における宗教的合同と宗教団体」に関する帝国総督グライザー (Reichsstatthalter Greiser) の行政命令。
1941	9	14	日	
1941	9	15	月	15日から24日にかけて、チューリヒで、オットー・ザロモン宅の客人となる。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	9	16	火	
1941	9	17	水	
1941	9	18	木	
1941	9	19	金	バーゼルにて、バルト宅で、とりわけ『告白教会のためのクリスマス・ブック』を計画。チューリヒからザビーネ・ライプホルツ宛の手紙「もうほぼ一年執筆してきた本を完成させるために十分な時間を見いだすことを願っている」。
1941	9	20	土	19日から20日、エーレンシュトローム、ベルリン。
1941	9	21	日	ズッツ宛の書簡、彼の結婚式に。
1941	9	22	月	シャルロッテ・フォン・キルシュバウムが、パウル・フォークトに、3つのテーマとその担当者を報告している。歴史と終末的待望 (ヴィルヘルム・フィッシャー)、キリスト教的責任 (バルト)、罪の赦し (アルフレッド・ドゥ・ケルヴェン [Alfred de Quervain])。ボンヘッファーは、その3つのテーマを当時、最も焦眉のテーマと記している。
1941	9	23	火	
1941	9	24	水	ソ連を含む連合軍の15政府が、「大西洋憲章」の趣旨を説明。
1941	9	25	木	チューリヒにて、ベル主教宛に手紙。彼の著書『キリスト教と世界秩序』をボンヘッファーが読んだ。
1941	9	26	金	スイスから帰国し、おそらくベルリンへ。／ベルリンで、モルトケはカール・ルードヴィヒ・フォン・グッテンベルクと共に、「ヒトラーへの宣誓の正当化と抵抗権について」の文書をやっと書き上げたドナーニーと再度面談。／ハンスとクリスティーネ・フォン・ドナーニー、10月7日までイタリアへ出張。
1941	9	27	土	
1941	9	28	日	
1941	9	29	月	エーレンシュトローム、10月2日までベルリン。
1941	9	30	火	9月末、ファビアン・フォン・シュラブレンドルフ、初めてオスターと話し合う。
1941	10	1	水	
1941	10	2	木	
1941	10	3	金	
1941	10	4	土	
1941	10	5	日	
1941	10	6	月	
1941	10	7	火	
1941	10	8	水	

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	10	9	木	
1941	10	10	金	ミュンヘン。ハンス-ヴァルター・シュライヒャー宛の手紙。その後ベルリンで、インフルエンザに罹患。そこから肺炎にかかり、ベートゲが看病する。
1941	10	11	土	
1941	10	12	日	
1941	10	13	月	
1941	10	14	火	
1941	10	15	水	モルトケが、オスターとドナーニーとに面会。
1941	10	16	木	ベルリン、ケルン、デュッセルドルフ、メンヒェン・グラットバッハ、レイト、ボンそしてヴィーンのユダヤ系ドイツ市民の大量移送。
1941	10	17	金	
1941	10	18	土	18日から19日、ペレルスは、ボンヘッファーと一緒に、国防軍へ伝えるために、大量移送に関する二つの報告を書く。
1941	10	19	日	
1941	10	20	月	
1941	10	21	火	
1941	10	22	水	22日(水)ないし23日(木)、ユダヤ人の移民を速効で阻止するための、SS(親衛隊)帝国指導者(長官)とドイツ警察庁長官による命令。移動措置については、ここでは触れられていない。
1941	10	23	木	
1941	10	24	金	
1941	10	25	土	
1941	10	26	日	
1941	10	27	月	
1941	10	28	火	
1941	10	29	水	
1941	10	30	木	10月末、ヴィリー・ロットが、ボンヘッファーとの相談の後、ケヒリン宛に手紙を書く。目的は、シャルロッテ・フリーデントール、インゲ・ヤコブセンそしてエミール・ツヴァイクを移送から守るため。
1941	10	31	金	(肺炎で数週間動けない状態)
1941	11	1	土	
1941	11	2	日	マリーエンブルク街に、ゲルハルト・エーベリンクとエーリヒ・クラブロートが訪問。
1941	11	3	月	
1941	11	4	火	

ボンヘッファー年表 (1940-1941) : 山崎 和明

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	11	5	水	
1941	11	6	木	
1941	11	7	金	
1941	11	8	土	8日と9日、ハンブルクにて告白教会会議 (Synode)。ボンヘッファーは欠席であったが、教会会議の委員会で、第5戒 (律法の第一効用 [primus usus legis]) の積義 (担当者) に選ばれる。
1941	11	9	日	
1941	11	10	月	
1941	11	11	火	
1941	11	12	水	
1941	11	13	木	
1941	11	14	金	
1941	11	15	土	
1941	11	16	日	モルトケ、11月22日にベックとの会合を、また参謀総長ハルダーとの別の会合を予定するため、オスターソとしてドナーニーと会う。
1941	11	17	月	ベルリン。クリストーフ・ベートゲ宛の手紙。
1941	11	18	火	
1941	11	19	水	
1941	11	20	木	
1941	11	21	金	
1941	11	22	土	
1941	11	23	日	
1941	11	24	月	シェーンフェルト、12月8日までベルリン。
1941	11	25	火	
1941	11	26	水	
1941	11	27	木	
1941	11	28	金	
1941	11	29	土	
1941	11	30	日	
1941	12	1	月	12月に、静養のためキーコー。
1941	12	2	火	
1941	12	3	水	
1941	12	4	木	
1941	12	5	金	
1941	12	6	土	
1941	12	7	日	日本が、パールハーバーを海と空から襲撃。

昭和16年	月	日	曜日	出来事
1941	12	8	月	イーデン（英国外務大臣）、モスクワへ。スターリンが、カーゾン線（第一次世界大戦後のポーランド東部国境）と東プロイセン（ポーランド北東部）の併合を要求。
1941	12	9	火	9日から10日、福音主義教会指導者（ヴルム）とカトリックの司教会議が、ナチ教会政治へのプロテストとしての覚書を帝国官房に手渡す。
1941	12	10	水	
1941	12	11	木	ドイツとイタリアが、アメリカへの宣戦布告。
1941	12	12	金	ルート・フォン・クライスト-レッツォウが、ボンヘッファーのために「タイプ用箋紙を500枚と官庁用箋（上質で純白の用紙）の印刷全紙200枚」を調達。／告白教会試験委員会に対する訴えの判決言い渡される。
1941	12	13	土	
1941	12	14	日	帝国教会相ケルルがパリで死去。
1941	12	15	月	
1941	12	16	火	モスクワに対する攻勢が頓挫。
1941	12	17	水	
1941	12	18	木	トゥロット、ジュネーブでヴィサート宅。
1941	12	19	金	陸軍元帥フォン・ブラウヒッチュが解任される。ヒトラーが陸軍の最高司令部（総司令部）を掌握。
1941	12	20	土	
1941	12	21	日	ベルリンに戻る。
1941	12	22	月	
1941	12	23	火	
1941	12	24	水	
1941	12	25	木	
1941	12	26	金	
1941	12	27	土	
1941	12	28	日	
1941	12	29	月	
1941	12	30	火	パウラ・ボンヘッファー、65歳の誕生日。
1941	12	31	水	ベルリンの合唱協会（Sinkakademie）で、バッハ「音楽の捧げ物」公演。